
愛情というものの定義。

陸一 潤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛情というものの定義。

【コード】

N9803E

【作者名】

陸一潤

【あらすじ】

「すみませんね。サディスティック星の生まれなんですよ」「ドS彼女とDM(?)な彼。これがワタシの愛情です!!」

「あのさあ、お願いがあるんだけど、」
「ん？」

彼の部屋でお気に入りのクッションを抱き込みながらワタシは唐突に言った。彼はシャーペンを片手に目は冊子とノートを行き来したまま、半ば上の空で返事をする。

「抱いてくれない？」

シャーペンの芯がブツ飛んだ。

「ナニ言ってるの！！？」

「ナニも何も。頭沸いた？」

「イヤ、沸いてませんけれども！！！」

頬どころか首の上真っ赤だ。何だコイツ。

彼はアタフタと何故かノートと参考書、消しゴムのカスの散らばったテーブルの上を片付ける。

ナニの言い方がなんかヤラシク聞こえたのはワタシの勘違いだろうか。

「ここ寮だし何にもないしもうすぐ同室の帰ってくるし、
つていうかなんでキミは男子量にいるの!？」

「なんか勘違いしてるみたいだから言っとくけど、抱きしめて
つていう意味だからね」

爆弾鎮火。

あなた以外にムツツリなのね トドメをさすと、一瞬にして真っ青になった。ワオ

彼はテーブルに勢いよく突っ伏す。

「イヤだ……これだからイヤだ……姉さん女房はツツ！」

「いつからあなたの女房なんだよ」

ぶつけたのかデコがあかくなっている。アホっ子てかわいいなあ、と思った。

「そのニヤニヤ顔もむかつく」

「ふふふ……」

直すつもりは無いさ。

かわいいし。

「たまにはね、愛情補充したいのさ」

(後書き)

甘に挑戦

撃沈。

感想待っています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9803e/>

愛情というものの定義。

2010年12月12日14時32分発行